

3月号

School Aid Japan

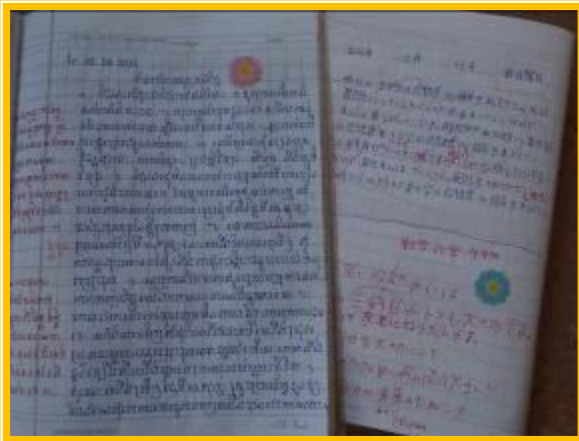
スクール・エイド・ジャパン

Dream通信

2016. 3. No.96



今日の自分を振り返ろう 日々子どもたちを支える職員たち



良い日記には「良く出来ました」のシールを



今日はどんな1日だったか振り返ります



日記の発表にしっかり耳を傾けます

皆様、こんにちは。日本は厳しい真冬の寒さを越え、春に向けて少しずつ暖かくなってきた頃でしょうか。カンボジアは3月と4月が最も暑いといわれていて、これからどんどん日差しが強くなります。暑さに慣れているカンボジアの子どもたちですが、体調管理には十分気を付け毎日元気な姿で過ごしてほしいと思います。

さて、今回のドリーム通信では子どもたちの日記の取り組み、現地職員の仕事について、去年卒園したカンチャナーの受験結果と来園時の様子をお送りいたします。

日記の取り組み

毎日その日の出来事を振り返り、反省し今後活かしていく為子どもたちは毎日日記を書いています。また、小さい子は文字を書く練習として、大きい子は言語の勉強として英語や日本語で書いている子もいます。

しかし、内容は出来事しか書かれていない日記が多く、もっと具体的で自分の気持ちや考えを書けるようになってほしいと思い、日記の書き方を見直す取り組みを始めました。

まずは職員が日記を添削する際に、どうしたらもっと良い日記になるのか、良く書けている日記にはどこがどう良いのかわかるように、赤ペンで詳しく書き込む事にしました。

また園正面通路のスペースを使って日記の具体例と、良く書けている子どもの日記を貼り出し、良く書けている子には毎回国旗後納時に皆の前で読み上げてもらうことにしました。

その結果、褒められた子の日記を真似する子、文章を長く書くようになった子、内容だけでなく考えやその理由が書けるようになった子、まだ文字が書けない小さい子が「日記を書きたい」と言ってくる等、日記に対しての意識が少しずつ変わってきました。

毎日日記を書くことによって、文章能力を身に付けることはもちろんのこと、常に自分の考えを持つことで自ら考え行動出来る人になってほしいと思います。



住田事務局長と記念写真

子どもを支える職員たち

園で働く現地職員は男子担当保3名、女子担当保母3名、調理担当3名、事務所職員3人名が全員住み込みで働いています。

保母さんたちは、朝5時の掃除から子どもたちが眠りにつくまでの間いつも子どもたちのそばで面倒を見ています。

時には優しい母親、時には厳しい父親、また兄弟のように頼れる、子どもたちにとっていちばん身近な存在です。

調理担当は朝4時から朝食の準備をし始め、朝食後は市場に出掛け食材の買い出しをします。市場に並んでいる食材を見て、また農場で作った野菜を収穫し、栄養のバランスが考えられたメニューを調理します。また、毎週土曜日と日曜日には、子どもたちへ調理の指導も行っています。調理担当が作る食事はいつも美味しいと子どもからも職員からも大好評です。

事務職員は事務作業以外に園で勉強を教えたり、学校の成績や生活態度等の指導を行っています。

また、園全体の問題点を一つひとつ挙げ、職員全員から意見をもらい、皆にとって居心地の良い園にする為に都度話し合いを行っています。

日中は授業がメインとなる為、夜子どもたちが就寝した後、毎日夜遅くまで事務所で仕事をしています。

日々子どもたちが安心して生活するには、近くで面倒を見てくれる保母担当がいるということ、美味しい食事を作ってくれる調理担当がいるということ、子どもたちが学校の勉強についていけるように、園で一生懸命勉強を教えてくれる事務職員がいるということ、職員一人ひとりの力が必要不可欠です。

そして、職員が一生懸命働く姿こそが子どもたちの成長に大きく関わっていくのではないのかと思います。

いつも笑顔を忘れずに、職員一人ひとりが子どもたち一人ひとりに愛情を持って関わっていきたいと思います。



子どもと一緒に農作業に励む保母さん



良い食材を見極める調理担当

カンチャナー 私立看護大学合格

去年卒園し、SAJプノンペン事務所で生活しながら塾に通い勉強していた高校3年生全員の進路が決まりました。

その中でソーン・カンチャナー(女)は、国立の看護学校には残念ながら不合格でしたが、バットタンバンにある私立の看護大学に合格、新しくご支援して下さる方が見つかри、大学に行く事が出来るようになりました。

先日来園したカンチャナーは新しいご支援者様に「助けてくれた事を本当に感謝しています。毎日頑張って勉強することをお約束します」と涙ながらに挨拶した。こうして子どもたちを支援して下さる全ての方に心から感謝し、子どもたちにはその恩を忘れずに日々の行いで恩を返してほしいと思います。



新しいご支援者様にご挨拶